



協力者 栗生田忠雄氏 (昭 62 農工)

松 涛

No.38

2021. 3. 10

主な記事

同窓会長挨拶	2
学部長挨拶	2
今年度の活動計画	3
同窓会会計報告	4
農学部同窓会役員名簿	5
農学部を去るにあたって	6
支部だより	7
職場紹介	10
新潟県農業総合研究所	10
園芸研究センター	11
トピックス	12
ペンリレー	16
国際交流	17
学部だより	18
嵐丘庭草刈り	18
農学部の動向	18
特集 コシヒカリ新潟大学 NU1号の開発	20

同窓会長挨拶

同窓会長 渡辺 仁

(昭52農工)



昨年、コロナウイルスに翻弄された一年でした。一昨年、元号が「平成」

から「令和」へと改まり、新たな時代の幕開けとしての期待が高まった年だっただけに残念でなりません。

中国・武漢から広まったと言われる新型コロナウイルスの猛威が全世界に広がり、欧米などでも未だに厳しい状況が続く、海外渡航も制限されるなど、経済・文化・スポーツ活動までも影響を受け、昨年開催予定の東京2020オリンピック、パラリンピックも延期となりました。

国内では、夏場には一時終息しそうな流れもありましたが、その後経済活動等が再開されると第3波と言われる再流行が始まり、年末年始の行動にも制限が加えられています。

イギリスやアメリカでいち早く接種が始まったワクチンの効果が確認され、終息に向かうことを願う毎日です。全国の大学でも、卒業式や入学式が取りやめになったり、対面式の授業が中止されたり、学生諸君への影響も大きかったものと推察しています。

我が母校の新潟大学も例外ではなく、令和元年度の卒業式、令和2年度の入学式が中止になったほか、卒論研究や実験など一部を除いては、未だにオンライン授業が続いていると伺いました。

農学部でも、卒業式の後に行われる

「卒業祝賀会」、入学式に先立ち開催される「保護者懇談会」も中止となり、加入率低下が懸念される同窓会への入会勧誘の機会も無くなってしまうました。しかし、面白い話題もありました。本誌の中でも紹介されている三ツ井敏明先生と刈羽村先端農業バイオ研究センターによる高温障害に耐性を持つ「コシヒカリ新潟大学NU1号」の開発です。今後の普及に期待したいと思っています。

昨年2月に就任された牛木新学長の挨拶の中に、変革期を迎える地方大学としての新潟大学は、土地柄としっかり結び付いていることが大切だとありました。本学は、脳研究所、災害・復興科学研究所という2つの附置研究所とともに、新たな地域連携の旗頭となるべき全学共同研究組織として、環東アジア研究センター、佐渡自然共生科学センター、日本酒学センターを発足させています。

これらが、社会に開かれた大学としての個性を現しています。高度な人材を社会連携の中で育成することが「知の拠点」、「知の自由空間」としての新潟大学の役割、たとえ述べられています。

また、同時期に就任された中田農学部部長は、農学は「食料」「生命」「環境」を支える総合科学として重要であり、21世紀における「持続的な農業の発展と環境保全」を目指した教育研究を進めたいと話されています。

更には、農林水産省の検討会では、コロナ禍にあつて見直され、期待が高

まっている「農村」のこれからについて議論がなされています。「半農半X」という言葉がこれからの農村を劇的に変えていくかも知れません。農学の役割が再認識されることに期待したいものです。

同窓会活動では、全学同窓会が各学科持ち回りで開催している記念講演会・交流会、基金で支援を受けている学生との交流を目的とした新潟大学サポーター倶楽部の報告会・情報交換会、大学との懇談会・交流会なども残念ながら中止となりました。

農学部同窓会でも、4年ごとの役員改選時に開催予定だった総会と毎年開催している常任幹事会、各県支部の総会等も軒並み中止となり、交流活動が出来ない状況でした。

なお、役員の改選につきましては、出身団体や個人との調整により決めさせて頂きましたし、決算、予算等の会計処理は書面議決により処理させて頂きました。この紙面を借りて報告させ

て頂きます。

しかし、幸いなことに年2回予定していた嵐丘庭の草刈り作業は、6月28日と10月18日に、中田学部長から率先参加頂いたほか、県庁職員やOB、教員、大学職員の皆さんの協力で、無事開催できました。また、農学部図書室への、図書の寄贈も予定通りに実施できました。様々な制約がある中で、工夫しながら活動が出来てホッとしているところです。

今年は、コロナが終息し、学部の教員、学生、職員等との交流促進など、今までどおりの同窓会活動が実施出来ることを切に願っています。

引き続き会員各位のご理解とご支援をお願い申し上げます。皆様からのご意見・ご要望等もお待ちしております。

最後に、皆様の益々のご健勝とご発展を祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。新年度も宜しく申し上げます。

学部長挨拶

農学部長

中田

誠



農学部同窓会の皆さまには、農学部の活動に毎年多くのご支援を賜り、農

学部教職員を代表して御礼申し上げます。新潟大学では、昨年（令和一年）二月に牛木新学長のもとで新しい大学執行部が発足し、前学部長の末吉先生が理事・副学長として大学運営にご活躍されています。末吉先生から農学部長を引き継いで約一年が経過しました

が、私が学部長に就任して間もなく、全国的なコロナ禍に突入し、現在に至っています。かつて経験したことのない、新型コロナウイルス時代の学部運営に翻弄された一年でした。冒頭の渡辺同窓会長の挨拶にもあるように、さまざまな行事が中止になり、対面型の授業が制限され、今もオンライン中心の授業が行われています。学内、学部内の会議はもちろんのこと、毎年八月に行われる恒例のオープンキャンパス、さらには国際交流さえもがオンライン開

催となりました。このような大きな変化の一部は、コロナ収束後の時代にも、新しい活動スタイルとして残っていくことでしよう。

昨年四月の第一期(第一、第二ターム)の授業開始は当初予定よりも約二週間遅れて、四月二十日に始まりました。われわれ教員は、これまで使っていた講義資料をオンライン用に作り替え、実験・実習用の動画を撮影したりと、例年以上に多くの時間を費やしました。しかし、最も不安や不便を感じていたのは学生です。とくに一年生は、入学してすぐのガイダンスこそ対面で行いましたが、その後はほとんどキャンパスに足を運ぶことなく、友人作りもできないような状態が続きました。卒論や修論等のための学生の実験や調査も大きく制限され、就職活動も、とくに県外での就職活動はオンライン中心の状況が続きました。

新潟大学農学部同窓生の皆さんには、日本全国はもとより、世界で活躍している人たちが大勢おられると思います。どの国も地域も経済活動が制限され、今も不便な生活を余儀なくされていることと思います。そういつた中で、幸いにも新潟県は今のところコロナ感染者が全国的にも低い水準で維持されています。昨年十月からの第二期(第三、第四ターム)には、卒業論文を含めた専門科目は学部の判断で、対面で実施できるようにしました。それでも教室や実験室の定員の半分以下とし、徹底した感染防止対策を取ったの実施です。そのような不便な環境においても、学生たちの頑張り、教職員の努力の甲斐あって、間もなく卒業論文や修士論文等の完成の時期を予定通りに迎えられるそうです。

さて、コロナの話はここまでにして、

農学部が今年で大きな節目を迎えたことをお知らせします。ご存じのように農学部は平成二十九年に理学部、工学部と歩調を合わせて学部改組を行い、それまでの三学科体制から農学部農学科の一学科五主専攻プログラム体制へと移行しました。改組後の初めての入学生がこの三月に卒業を迎え、学年進行上の改組が完了します。農学部の五つのプログラムの卒業生が、これから社会へと羽ばたき、大いに活躍してくれると信じています。思い起こせば今から五年前、新潟大学の自然科学系、すなわち理学部、工学部、そして農学部改組の大きな波が押し寄せていた頃、農学部では中堅から若手の先生が中心になって改組のためのワーキングを組織し、農学部教授会にフィードバックしながら、さまざまなアイデアを出し合い、時には批判を受けながらも、時代の流れや社会の要請に合わせて、できる限り良い組織や仕組みを作りたいという共通の目的のもと、今の五プログラム制を作り上げてきました。そうした中で、全国的にも画期的な、理学部・農学部の学部横断型プログラムも設置することができました。

当時の渡邊学部長(現 新潟食料農業大学教授)らとともに文科省へ幾度と足を運んだことも、今となっては懐かしい思い出です。現在の大学改革の流れは大学院へと移っています。分野横断型の新しい大学院学位プログラムとして、フィールド科学プログラム、環東アジア融合プログラムが本年四月に開設予定であり、日本酒学プログラムも来年四月の開設を目指して準備が進められています。これらの大学院学位プログラムに農学部が深く関わっていることは申し上げるまでもありません。今年になってからの大きな出来事と

して、これまでの大学入試センター試験が大学入学共通テストに変わったことも挙げられます。加えて今年はコロナ禍という緊迫した状況の中で、この一月十六、十七日に大学入学共通テストが行われました。ちょうどその一週間前には、新潟県、北陸地方が大雪に見舞われ、交通機能が麻痺したことが記憶に新しいところです。その意味でも、今年の大学入学共通テストを無事に終えられたことに教職員一同、安堵しているところです。この大学入学共通テストでは、知識の積み上げだけで

2020年度活動計画

幹事長 杉山 稔 恵 (平一畜産)

なく、思考力、判断力、表現力が求められるようになりました。さらに、近未来の新しい時代を生きる若者は、自ら課題を発見し、皆で協力して課題に取り組み、そして解決策を導き出す、このようなスキルを大学で学ぶことになり。新潟大学農学部は、地域に根差しつつも広く世界を視野に入れ、人類の幸せな未来を実現するために、教育・研究・社会貢献に一層の努力を続けて参ります。農学部同窓会の皆さまには、今後も変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

年度当初予定していた総会(4年毎に開催)及び常任幹事会の開催が、新型コロナウイルス感染症の拡大で中止せざるを得ないこととなりました。活動については、状況を注視しつつ例年のおり下記の事業を中心に取り組んでいく予定です。

1. 「松濤」38号の発刊
同窓生からの協力の基、親しめる紙面の充実を図り同窓生から読んでもらえる会誌を目指します。
2. 「風丘庭」の維持・管理とおしでの有効活用を図ります
農学部の顔である「風丘庭」の維持・管理をおし交流事業等を実施します。農学部同窓会活動の活性化のためHPで積極的な声掛けを行います。
3. 学部内諸行事への支援
「卒業祝賀会」開催への支援を行います(卒業生出席無料)。
4. 学術・文化活動への支援
農学部が行う国際交流事業、および
5. 農学部フォーラム、K A A Bフォーラム等の学術・文化活動を支援します。
6. 受験者増加への取組みに対する支援(農学部の魅力PR)
農学部を理解してもらうための「高等学校への訪問」及び「高等学校教員の招聘(アドミッシヨンフォーラム)事業」への支援を行います。
7. 農学部図書室の充実支援
在学生への具体的な支援の取組として、農学部図書室の充実支援を行います。
8. 農学部学生の就業力育成に係る支援
農学部学生の就業力育成にあたり、卒業生による指導、助言のための講演、研修会などの支援を行います。
9. 全学同窓会活動の運営及び各種行事への参加協力
全学同窓会理事(副会長)・渡辺仁会長、運営委員会委員・杉山稔恵幹事長、佐藤努在校幹事を派遣します。

2019年度新潟大学農学部同窓会 事業費決算報告 (令和元年5月1日～令和2年4月30日)

1. 収入の部

(円)

科 目	予 算	決 算	増 減	備 考
基金収入からの繰入	4,530,000	4,530,000	0	
前年度繰越	487,929	487,929	0	
利子・雑収入	25	26	1	利息 26円
合計	5,017,954	5,017,955	1	

2. 支出の部

科 目	予 算	決 算	増 減	備 考
1. 事務局費	767,000	685,379	▲ 81,621	全学同窓会交流会・役員会出席補助、支部総会出張旅費、通信費、電話料、謝金、消耗品費等
2. 会議費	490,000	391,043	▲ 98,957	常任幹事会支部役員出席旅費 常任幹事会会場使用料等
3. 名簿情報維持管理費	75,000	74,520	▲ 480	名簿データベースメンテナンス
4. 卒業祝賀会費	700,000	0	▲ 700,000	中止 新型コロナウイルス感染の拡大による
5. 退職者記念品費	15,000	24,975	9975	退職者2名(教員・技術職員)
6. 嵐丘庭維持費	100,000	26,652	▲ 73,348	中庭草刈り1回(同窓生・在学生・教職員との交流)
7. 「松涛」発行費	1,350,000	1,312,962	▲ 37,038	「松涛37号」「しおり」印刷、郵送等
8. 慶弔費	50,000	0	▲ 50,000	弔電
9. 支部活動助成費	350,000	350,000	0	8支部(6支部35,000円、新潟県・首都圏支部各70,000円)
10. 学文活動助成費	250,000	85,271	▲ 164,729	中国農業大学との交流、世界展開力強化事業、サクラサイエンス事業
11. 全学同窓会負担金費	435,038	432,038	▲ 3,000	令和元年度入学定員による比率(%)8.0386
12. ホームページ費	50,000	7,000	▲ 43,000	松涛、記事等掲載
13. 志願者確保対策助成費(高校訪問旅費助成費)	170,000	137,173	▲ 32,827	教員による高校訪問・アドミッションフォーラム等
14. 農学部図書室充実費	100,000	99,597	▲ 403	農学部学生による希望図書の購入補助
15. 学生の就業力育成に係る助成費	50,000	6,000	▲ 44,000	農学部学生の就業力育成のため、農学部卒業生による指導、助言の旅費等
16. 予備費	65,916	0	▲ 65,916	首都圏同窓会総会(農担当)開催経費補助
合計	5,017,954	3,632,610	▲ 1,385,344	

3. 差引残高(A-B) 1,385,345円 次年度への繰越金

2020年度新潟大学農学部同窓会 事業会計予算 (令和2年5月1日～令和3年4月30日)

1. 収入の部

(円)

科 目	本年度予算	前年度決算	増減	備 考
基金収入からの繰入	3,300,000	4,530,000	▲ 1,230,000	
前年度繰越	1,385,345	487,929	897,416	
利子・雑収入	26	26	0	
合計	4,685,371	5,017,955	▲ 332,584	

2. 支出の部

科 目	本年度予算	前年度決算	増減	備 考
1. 事務局費	700,000	685,379	14,621	全学同窓会交流会・役員会出席補助、通信費、電話料、各支部への出張旅費、謝金、消耗品費等
2. 会議費	100,000	391,043	▲ 291,043	令和2年度常任幹事会開催中止に伴う関係事務費等
3. 名簿情報維持管理費	75,000	74,520	480	名簿情報メンテナンス等経費
4. 卒業祝賀会費	700,000	0	700,000	卒業祝賀会費補助
5. 退職者記念品費	45,000	24,975	20,025	退職者教員3名
6. 嵐丘庭維持費	100,000	26,652	73,348	除草等
7. 「松涛」発行費	1,350,000	1,312,962	37,038	「松涛38号」「しおり」印刷、発送等
8. 慶弔費	50,000	0	50,000	弔電、生花代等
9. 支部活動助成費	350,000	350,000	0	支部活動助成(6支部@35,000首都圏、新潟県@70,000)
10. 学文活動助成費	250,000	85,271	164,729	3大学合同研修会、FCシンポ、新大GP、農学部フォーラム等
11. 全学同窓会負担金費	435,000	432,038	2,962	令和2年度入学定員による比率(%)8.0386
12. ホームページ費	50,000	7,000	43,000	メンテナンス等経費
13. 志願者確保対策助成費(出前講義旅費助成費)	170,000	137,173	32,827	高校訪問、アドミッションフォーラム等
14. 農学部図書室充実助成費	100,000	99,597	403	農学部学生用図書及び閲覧スペースの充実
15. 学生の就業力育成に係る助成費	50,000	6,000	44,000	農学部学生の就業力育成のため農学部卒業生による指導・助言
16. 予備費	160,371	0	160,371	
合計	4,685,371	3,632,610	1,052,761	

2019年度新潟大学農学部同窓会 基金会計報告 (令和元年5月1日～令和2年4月30日)

1. 収入の部

(円)

科 目	前年度	今年度	増 減
繰越金	26,403,959	26,526,574	122,615
基金収入(入会金)	4,421,958	4,203,416	▲ 218,542
利子	657	1,841	1,184
合計	30,826,574	30,731,831	▲ 94,743

2. 支出の部

(円)

科 目	金 額	備 考
事業費繰入	4,530,000	
総会開催準備費	267,757	開催案内等発送済(途中中止決定)
嵐丘庭修繕工事費	952,325	緊急修理
合計	5,750,082	

3. 次年度への繰越金

(円)

科 目	金 額
収入合計	30,731,831
支出合計	5,750,082
繰越金	24,981,749



新潟大学農学部同窓会役員名簿

(令和2年度～令和5年度)

役職	卒業年	学科等	氏名	職域幹事				在校幹事				
				職域	卒業年	学科等	氏名		卒業年	学科等	氏名	
名誉会長 (農学部長)			中田 誠	県 庁	S 59	農化	小幡 浩之		S 56	農学	岡崎 桂一	
					S 61	農工	佐藤 孝		S 57	林学	箕口 秀夫	
顧問	S 41	農学	進藤 隆		S 63	農工	風間十二朗		S 60	農学	佐野 義孝	
会長	S 52	農工	渡辺 仁		H 01	農工	増田 秀明		S 62	農工	粟生田忠雄	
副会長	S 52	院農	新村 末雄		H 02	林学	石井 和博		S 62	農工	稲葉 一成	
〃	S 52	農化	渡辺 紀之		H 04	畜産	安藤 義昭		S 63	農化	鈴木 一史	
〃	S 55	農学	白井 敏彦		H 04	林学	倉 敏行		H 01	畜産	杉山 稔恵	
〃	S 58	農工	大嶋 良夫		H 05	農工	二村 健一		H 02	畜産	藤村 忍	
〃	S 61	農工	田澤 晃		H 06	農化	皆川 律子		H 05	農化	大竹 憲邦	
〃	S 61	農学	横山 徹郎		H 10	農生	白井 敏樹		H 07	応生	中島 真美	
〃	H 02	農工	高橋 裕		H 13	応生	赤石隆一郎	院自 H 9	生体機能	佐藤 努		
					H 16	生環	本田 純一	H 11	生環	森口 喜成		
会計監事	S 59	農工	中山 修		H 17	応生	遠藤 厚志	院自 H11	植物生産	韓 東生		
〃	H 01	農工	前山 誠		H 18	生環	宮嶋 大介	H 12	生環	大橋慎太郎		
				H 25	生環	高田 宗光	H 12	農生	田中 知佳			
幹事長	H 01	畜産	杉山 稔恵				H 14	農生	田中 繁史			
副幹事長	S 52	農化	細井 修平	市役所	H 03	農工	風間 雄一	院自 H17	生物生産	古澤 慎一		
〃	S 54	農学	渡辺 広治		H 04	林学	五十嵐康明	H 18	応生	金古堅太郎		
〃	S 60	農工	渡辺 正義		H 09	応生	飯塚 和美	H 21	応生	鈴木 一輝		
〃	S 61	林学	大井田 哲					H 21	生環	宮津 進		
〃	H 03	農学	桜井 広利					H 25	応生	上田大次郎		
				教員	S 62	畜産	真島 徳衛	H 25	応生	上田大次郎		
					S 63	畜産	椎谷 一幸	院自 H27	生物資源	大谷 真広		
会計幹事	S 60	農学	佐野 義孝				H 27	農生	高橋 若菜			
〃	H 21	生環	宮津 進	農業団体	H 09	農生	宮崎 吉典					
					H 10	農生	谷川 昌行					
					H 10	農生	中島 勝久	支部代表幹事				
松涛編集委員会					H 17	生環	上道 大翼	支部名	卒業年	学科等	氏名	
委員長	H 08	林学	柴宮 秀生		H 21	農生	安達 祐気	新潟	S 61	農学	佐藤 一志	
委員	S 62	農工	稲葉 一成					首都圏	S 56	農工	加藤 彦枝	
〃	H 01	農学	竹田 宏行		企業・一般	S 48	林学	相楽 治	富山	S 53	農学	小林真一郎
〃	H 08	農生	川田 学			S 48	畜産	田崎 康子	秋田	S 52	農工	小島 武志
〃	H 19	生環	山田いずみ			S 50	林学	中村美和子	福井	S 50	農工	小竹 哲郎
〃	H 25	応生	上田大次郎			S 61	林学	桜川喜一郎	福島	S 32	農学	高久 英昭
				H 08		応生	伊藤 彰	長野	S 43	農工	西原 義久	
								北海道	S 51	農学	五十嵐龍夫	
事務局			家後 輝雄									

農学部を去るにあたって

農学部を去るにあたり

高橋 能彦

(附属フィールド科学教育センター 旧農場)



附属フィールド科学教育センター(旧農場)の高橋です。農学部には2004年2

月から17年2月

に渡り勤務させていただきました。着任時に当「松涛」の新任教員紹介欄で3名の女子学生と一緒に並んだ写真を掲載し、文面では「前の職場はおじさんとおばさんで年齢が並行移動……」と書いてしまったが故に当該の県研究機関からひんしゆくを買い、出入り禁止になった記憶があります。農場専任教員という立場上、農場運営の中で教育や研究の他、地域連携という多くの草鞋を履いてきました。結果的にはどちら中途半端になり関係の皆様には多大な御迷惑をおかけする事になったかと思えます。また、特に農場運営では歴代の学部長や事務方の皆様には多大な御支援をいただきました。退職に当り、本紙面をお借りして感謝申し上げます。当方17年の学部生活で何があつたかと思ひ返しますと、大学ブランドの日本酒「新雪物語」の開発、10年間に渡る中国黒竜江省とのJICA連携事業、2010年と2019年の県産米品質低下に関係する「新潟産米の研究会」座長の他いくつか教えることができます。本県農業に対して稲作分野では新潟大学の教員として若干の貢

献が出来たのかと自負しています。ただし、米の消費低迷や米価下落等、米産県である当県農業の行く末を危惧しています。農学部の皆様にはこれらの問題に今後とも更なるご尽力をお願いいたします。個人的には退職後もしばらくは新通農場当りに出沒するかと思ひます。農学部の益々の御発展を祈念いたします。長い間大変御世話になりました。

The best is yet to be.

西村 実

(農産生産科学科)



2013年4月、本校に着任しましたので8年間の短い大学教員期間でしたが、十分とは言えないにしても学生の皆さんの進展につながるよう進んできました。もともと大学院に進みましたが、それは当時それほど難しい道でもなかったことから、あっさり方向転換をしました。大学3年生の夏休みの間ずっと長野県のトウモロコシ育種の指定試験地の宿舎に泊まりながらアルバイトをし、土日には毎週山歩きをしていました。そのため育種をやりたい気持ちが強く、大学院博士課程を中退して農林水産省に入り、国立の北海道農業試験場で水稲育種をすることにしました。その後農林水産省で行政職に就いた後、九州農業試験場、農業生物資源研究所を経て本校に異動し

ました。30年以上大学から離れていましたのでその変わりようにかなり戸惑いました。自分が過ごした大学が特殊であつたかもしれないことを差し引いても余りあるほどでした。

40年ほどの職業人として、やりたいこと、やらざるを得ないこと、やれなかったこと、様々な経験ができました。それらをもとにして学生の皆さんと接してきました。その間ずっと言い続けてきたことは以下の3点です。授業中にはこの3つをできるだけ伝えるようにしてきました。① Leap before you look. (大江健三郎著「見るまえに跳べ」) ② Sail on Silver Girl. Sail on by. Your time has come to shine. All your dreams are on their way. See how they shine. (サイモン&ガーファンクル「明日に架ける橋」 Bridge Over Troubled Water) ③ Grow old along with me! The best is yet to be, the last of life, for which the first was made. (Robert Browning「共に老いてゆこう。一番いいときはこれからだ。人生の最後のために最初がある」)。農学部同窓会の皆様にとつても、私にとつても “The best is yet to be.” です。

佐渡演習林とともに

崎 尾 均

(佐渡自然共生科学センター演習林)



私は2008年4月に、農学部附属フィールド科学教育センター(演習林)に赴任

した。まず、演習林の天然スギの素晴らしさや、植物の豊富さに目を奪われた。それ以来、佐渡島に居住した期間

は、Chance, Challenge, Changeの連続であった。その一つ目は、文部科学省教育関係共同利用拠点への申請で、2012年に3度目の正直で拠点に認定された。これまで、農学部の森林系の実習を行っていたが、これによって全国の他大学他学部の実習を行うようになり、7月から9月はほとんど連日の実習漬けの毎日になった。理学部の実習所や朱鷺・自然再生学研究所センターとは、森里海をテーマとした実習も開始した。2つ目は、2019年の佐渡3施設の統合による佐渡自然共生科学センターの発足である。センター長として、将来、佐渡市との連携による自然史博物館の設置を模索し始めた。3つ目は、2020年に世界展開力強化事業でマダガスカルとの学生交流を目指したが、これは最終段階で認められなかった。プライベートでは、佐渡国際トライアスロンで4年連続完走した。佐渡一周210kmロングライドにも出場し、制限時間の数十秒前にもゴールし、感極まって泣いたこともあった。佐渡演習林では、多くの学生たちとフィールドに出て、森の植物との会話を楽しみ、新しい発見をした。私が新潟大学でこのような生活がおくれたのも、周りの教職員や学生たちのおかげである。あらためて感謝したい。



支部だより

◆北海道支部

北海道同窓会会長の五十嵐です。今回は私の近況も含めてお伝えします。今年10月中旬の土曜日に北海道内で開催している同窓会総会と懇親会は、令和2年度は中止となりました。毎回の時期は、自家用車での峠越えは降雪予報に注意し、冬タイヤへの交換を意識していたものでした。

道内の農学部卒業者は累計134名を数えます。毎回総会案内を送りますが、住所や勤務先の変更による案内状の返送も多数あります。総会・懇親会の会場は当初から道内持ち回りとし、参加しやすいように日帰りも想定しているが、常連出席者は年々高齢化が進み、若手同窓会会員



救急法の講習会



は出席が続かないようです。住んでいる十勝管内にも同窓生の転入や就職を確認しているので、何かの機会に「顔つなぎ」でもと考えます。現在私は、期限付きだが週に2〜3日、農業改良普及員時代の知識と経験を活かす求めに応じ、ビート育苗培土や園芸培土などを製造・販売している会社に勤めています。

日本赤十字社の救急法指導員の資格を取得して10年。ボランティアで、年に何回か救急法の講習会に加わっているが、令和2年度は11月以降、短期講習のみ対応です。

今年が例年通り、新潟市で同窓会常任幹事会が開催されること、北海道同窓会の盛会をお祈りします。

五十嵐 龍夫（昭51農）

（添付画像は救急法短期講習時のものです。余計ですが本人の画像も加えています。）

◆秋田県支部

名前は「サキホコレ」

「コシヒカリを超える極良食味品種」

を目指し、秋田県が平成26年度から開発に取り組んだ秋田米新品種の名称が決まりました。コメの名称応募件数としては全国最多の25万件と注目を集め、最優秀賞1名には賞金100万円が贈呈されました。

秋田県では、昭和59年にデビューした「あきたこまち」が長年に渡り主力品種となってきましたが、全国でブランド米が続々と誕生する中、新たな県産米の顔として産地を牽引していく極めて食味の高い品種の開発が急務となっていました。

サキホコレは、父親に大粒・良食味の本県オリジナル品種「つぶぞろい」を、母親には愛知県が育成した良食味で、いもち病にも極めて強い「中部132号」を採用。食味に優れるのはもちろん、いもち病に対する耐性を引き継ぎ、高温による品質低下が少なく、冷害にも強いという優れた特性も獲得していました。今後は、各種PR活動でネームバリューを高めながら、令和4年度の一般作付けと市場デビューを目指すそうです。

と今回は、新型コロナウイルス感染症の影響で例年開催している総会と忘年会が中止となり支部の活動報告ができないうので、昨年12月に発表された秋田米新品種の紹介をさせていただきます。今年には新型コロナ禍が収束し、どちらも開催できることを願います。

鈴木 善彦（平3農）

令和2年8月6日、福島市弓道場で、「コロナ撃退射会」を開くことができました。

◆福島県支部

生まれて初めて「弦打ち」（鳴弦）の儀式を体験。「コロナ、退散！ヤーツ！」以前、続けていた柔道の得意技

「背負い投げ」の気合いを込めて、発声しました。



コロナ撃退射会

この「弦打ち」は、古語辞典によれば、「まじないの一種。物の怪や邪気を払うために、矢を番えず、弓をはじき鳴らすこと。また、それを行うひと。」とあります。

この儀式は、1008（寛弘5）年、紫式部作『源氏物語』五十四帖の中の四帖「夕顔」の中に、表現されているという。そこで、元国語教師の妻に、講義を聞くこと、一日「夕顔」の原文から口語訳までの授業でした。それは、殆ど理解されない状況でしたが、光源氏と可憐な夕顔との儂い恋模様。「弦打ち」は、恋に酔いしれる光源氏と夕顔との一夜に起きた、美しくも、悲しい夢物語。結局、夕顔は、その夜、枕元に現れた美しい女の生霊のために殺されるという、光源氏、恋の終焉の物語でした。

「隨身ばかりぞありける。召せば、御答えして起きたれば、源氏「紙燭さして参れ。隨身も弦打ちして、絶えず声づくれ、と仰せよ。人離れたる所に心とけて寝ぬるものか。」（いつもの隨身だけしかいないの

だった。お呼びになると、留守居役の子が返事をして、起きてきたので、光源氏は「紙燭をつけて持つてまいれ。隨身も弦打ちをして、声を絶やすなと言いつけよ。人気のない所で、気を許して寝込んでなるものか。」

コロナと暑さの心配の中で、「弦打ち」から、「源氏物語」を習うことが出来たことは、意義深い出来事でした。明日からの生活に、「魔除けの鳴弦」を、「弓弦」とつきつきしく（手慣れた様子）うち鳴らして『過』したいと思う。「源氏物語」が後世に与えた影響は大きく、それぞれの訳者の解釈や趣向と相まって一つの文学となつていて、これを理解した一日と思うのです。

高久 英昭（昭32農）

◆首都圏支部

首都圏支部会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

昨年年初からの新型コロナウイルスの感染流行、拡大が未だ収まる気配がなく、当たり前前の日常を取り戻すにはまだまだ時間が掛かりそうです。

支部では、令和元年11月に東京事務所（田町）で幹事会を開催し、第34回首都圏支部総会の開催（日時、場所）について検討しました。この時点では、総会を



令和2年6月20日（土）に前回と同じ喜山俱樂部で開催することを確認し、準備に入りまし



高輪ゲートウェイ駅

た。12月26日にはニューズレターを支部会員（約180名）に発出し、第33回総会の様子と第34回総会の開催を案内しました。しかしながら、令和2年2月3月には新型コロナウイルス感染症の発症ニューズが連日報道されたことから、4月の幹事会を見合わせメールによる意見集約を行い、今年度の総会を見送ることとしました。会員の皆さんには、ニューズレターで総会中止の案内（5月）、活動報告と会計報告（7月）をお知らせしました。

今年度の会員の消息について報告します。農学科（農業経営学教室）昭和57年卒（59年院卒）の岩濱洋海（いわはま ひろみ）さんが、農林水産省総括審議官（危機管理や政策立案を担当）から令和2年8月3日付で農林水産省北陸農政局長に着任されました。新たな勤務地は金沢市です。

現在東京事務所がある最寄り駅のJR田町駅と品川駅間に、昨年4月に山手線30番目の駅「高輪ゲートウェイ駅」が開業しました。オープン記念行事も予定されていましたが、残念ながらコロナの影響で中止となり、話題性

も今いちでした。駅舎は2階改札階からホームが見渡せるこれまででないモダンな造りで、これからの賑わいが期待されているようです（写真）。

昨年末にはコロナワクチン接種の明るいニュースも届き今年こそは、多くの皆さんとともに支部総会、懇親会を開催できることを祈念しています。どうか新型コロナウイルスに負けず、「withコロナ」のなかで新しい日常を送っていきましょう。

加藤 彦枝（昭56農工）

◆新潟県支部

令和に入つて最初の支部総会（2020年1月25日）において、新潟県支部長を拝命いたしました佐藤（昭61農卒）と申します。昨年、猛暑の影響で大幅な品質低下となったコシヒカリをはじめとする新潟米については、本年（2年産）も度重なるフエーン現象など昨年の暑を上回る猛暑でしたが、緊急的な管理などの対策に農業者をはじめ農業関係機関が一丸となって取り組んだ



2020年1月25日支部総会（農学部学生歌唱）

ことで例年並みの品質が確保され、昨年から大幅に改善されました。この対策や現地指導に当たり、新潟大学農学部先生からは指導助言をいただき、関係機関のスタッフには多くの卒業生が活躍されており、改めて本県農業の振興に多くの卒業生をはじめ新潟大学農学部が支えていることを実感しています。さて、本来であれば、2020年は東京オリ・パラをはじめ日本がいろいろな意味で盛り上がるはずでしたが、ご承知のとおり、コロナ禍一色の激動の年となり各種イベント等はことごとく中止、延期。よって2021年1月に予定していた第10回となる節目の支部総会も、残念ながら中止とさせて頂きました。そんな中でも、同窓会で6月、10月に実施した嵐丘庭の草刈りに地元支部会として参加協力しました。楽しみにしていた終了後の慰労会もできませんでしたが母校のためには汗を流すことができました。2021年度は今年できなかった分、これまで以上に支部総会を含め盛り上げていきたいと考えていますので、支部会員の皆様からはご理解とご協力をお願いいたします。末筆ながら、一日も早い感染症の終息と日常生活への復帰、そして会員皆様のご健康をお祈り申し上げます。

佐藤 一志（昭61農）

◆長野県支部

2020年度長野県支部はコロナ禍のなかで幹事会、総会の開催を中止し



2017年総会後の講演会

ました。そのため、本稿は毎年恒例で行っていた総会報告ではなく、事務局より近況などを述べることにしました。

事務局の主な仕事は、毎年、支部長や幹事の方々と相談しながら総会の出席者をいかに増やすかにあります。

近年の総会は、渡辺会長のご臨席を賜わり、直接、本部や農学部状況を紹介していただいています。合わせて、支部会員が自分の得意分野などについて講演することが通例です。

内容は、ユニークで充実していると思うのですが、参加者の増という点では、現在のところ、大きな成果には至っていません。新たな参加者を得るため、開催地を変える、初参加者や女性の参加費を割引く等も行っています。

そのような状況ですが、救いは、総会案内の往復葉書の返信が、たとえ「欠席」でも6割程度はあることです。経費節減のため、電子メール等の方法の検討も必要かと思いますが、年に一度

の「往復書簡」は、決して無駄ではないと私は考えています。

「世間は広いようで狭いもの」。仕事関係で出会った人が、初対面ですが毎年葉書を送っているOBで、先方も送り主と気付いてくれることもあるのです。また、その人が連れてくる部下も同窓生OGであったことが実際にありました。

総会などの行事に足を運んでくれるまでには、なかなか高いハードルがあると思います。しかし、「往復葉書」のやり取りだけでも、同窓生であると再確認する機会にはなっていると思っています。ただ、事務局の自己満足かもしれません。

コロナ禍のなか、そんな機会も今年は無くなってしまいました。厳しい状況が続くことも予想されますが、「コロナに負けるな」を合言葉に、同窓生各位が御自愛されることを願ってやみません。少し前ですが、2017年の総会後講演会の写真を添付しました。

増野 和彦（昭57林）

◆福井県支部

支部会長である小竹哲郎氏（昭50卒）より庶務・会計役の竹内伸一氏（平成3卒）を紹介して突如として「松涛」支部だよりの原稿依頼があり、卒業年次の支部名簿では年寄り四番目の位置する喜寿を過ぎた者が筆を取る事となりました。

令和の年に入り早くも二年が過ぎようとしております。本年は、昨年中国

で発見されたと言う新型コロナウイルス「COVID-19」の感染蔓延の話題が二月ごろから始まり今なお、国内は無論のこと全世界ではいろいろな社会経済活動に影響を及ぼしております。

このため発足以来欠かさず継続開催されて来た同窓生の親睦と融和を図る農学部同窓会福井支部「福井松涛会」の総会その後の懇親会は中止せざるを得ない事態となり、支部だよりへ投稿する内容はなく困惑しておりますが、昨年度の「福井松涛会」総会資料の名簿に目を通した折に自分が高齢の域に入ったことを感じた次第です。

年を取ると過去を回顧することも多くなり「福井松涛会」設立に携わった一員であったことからその記憶を辿りこの事についての一部を書く事としました。

平成十四年十二月十日に発刊された松涛創立五〇周年記念号によると新潟大学農学部同窓会会則は昭和二十八年十一月に制定され、平成八年八月までに四回の会則改正を経ております。

一方、「福井松涛会」の発足時には私は県庁に勤務しており同窓の先輩で新潟生まれの多比良樹徳さん（S29卒）も県庁勤務されておられ私を同窓生であることを分かっておられ、たまにはお酒の付き合いもあり懇意にさせて頂いておりましたが、福井県内には同窓生も多くなってきたので、同窓会福井支部を設立してはと持ち掛けられた経緯がありました。幸いなことに私の所属課内には、先輩にあたる大野市出身の朝日泰蔵氏（昭51卒）が勤務されておられ支部設立に朝日氏にも加わって

いた、だき三人体制で取り組む事となりました。

まずは、同窓会名簿から県内在住者のリスト作りに始まり、会員勧誘では民間企業、福井大学や公立学校教員、公務員、製薬会社、僧侶、自営業等多種多様でした。また、会則の原案作成を経て農学部同窓会福井支部「福井松涛会」設立総会が開催されました。時は平成三年四月十三日でした。初代支部会長は多比良樹徳氏にお願いしました。その後は支部会長も何人かの方が務められ現在に至っております。

本年は、憎き新型コロナウイルス「COVID-19」により総会も書面をもって終わっています。年が明けた令和三年は、ウィズコロナの年となるでしょうが「福井松涛会」発足三十周年の節目の年でもあります。

今後も「福井松涛会」の発展と併せて同窓の皆さんの絆を大切に幸多からん事を願っています。

青木 源久（昭41農）



職場紹介

新潟県農業総合研究所 園芸研究センター

宮嶋 一郎（平7農生）

【沿革】

新品種の育成や栽培技術の確立など新潟県の園芸振興を目的に、大正11年に新潟農事試験場園芸部として旧北蒲原郡京ヶ瀬村に設置されたのが新潟県農業総合研究所園芸研究センターの始まりです。

昭和8年に旧新津市七日町に、さらに昭和56年には社会の急速な技術進歩と多様な品目の栽培試験に対応するため、現在の北蒲原郡聖籠町に移転しました。

数回の組織改編を経て、平成9年には新潟県農業総合研究所園芸研究センターとなり現在に至っています。



研究2科・総務課1課体制ですが、園芸専門の農業革新支援担当も兼務で常駐しており、新潟県園芸の技術・情報拠点となっています。

【業務】

当センターは新潟県園芸の生産振興を図るため、新品種や各種技術の研究開発を以下の2科で行っています。

○育種栽培科

果樹・野菜・花きの3研究チームに分かれ、新潟県オリジナル新品種の開発、原種の増殖・配付、高品質・低コスト栽培管理技術の開発などを行っています。当センターが育成したいちご「越後姫」は県民の皆さんに愛される品種として広く栽培されています。またその高設栽培技術開発は、従来の農業の泥臭さと重労働のイメージを払拭する新時代の栽培方法として県内で広く定着してきました。

近年の品種開発では、人工授粉が不要で省力的な日本なし「新美月」「新王」、7月中旬から出荷可能な早生茶豆（えだまめ）「新潟系14号」、全国一の切り花生産を誇るチューリップの17品種などが成果となっています。

栽培管理 技術研究で は西洋な レクチェ の早期成 園化を可 能にする ジョイン ト栽培、 水稲育苗 ハウスを 利用した ぶどうの アーチ栽 培、LED 補光を用 いた果菜 類の接ぎ 木育苗の 安定化、 いちご「 越後姫」 の早期収 穫技術、 品質保持 剤を用いた チューリ ップ・ユ リ切りの 花の日持 ち向上技 術など、 県内向け 多数の成 果を輩出 しています。



現在は稲作経営体への園芸導入、複合営農の推進のための研究、省力化・作業負荷の低減、高品質低コスト化技術の開発などを特に重点に取り組んでいます。

○環境・施設科

植物栄養・省エネルギーと病害虫の2研究チームに分かれています。栄養・省エネチームでは、栽培の施設化・装置化によるスマート栽培技術、施設栽培の省エネ技術、土壌成分・植物栄養に関わる研究などを行っています。病害虫チームは県内で発生する難防除病害虫の防除技術、農薬だけに頼らない総合的な病害虫防除技術（IPM）などの研究を行っています。また、県内各地域の農業普及指導センターや農業関

係機関が判断ができない園芸作物の病害虫等の同定診断も行っており、その数は毎年50件以上となっています。

近年の成果として、高収益が可能なきゅうりの養液栽培、局所加温によるいちご「越後姫」の早期収穫、病落葉除去によるセイヨウナシ褐色斑点病の防除、温湯浸漬によるイチゴうどんこ病の防除などの技術開発が挙げられます。

現在は安全安心な食志向やIT技術の進歩に対応するため、天敵や有機肥料を用いた化学農薬・化学肥料等の低減技術、情報通信技術（ICT）を用いた栽培環境管理、変温管理による冬期暖房の削減技術、人工知能（AI）による病害虫診断技術の開発などの課題を特に重点に取り組んでいます。

【当センターの新潟大学農学部出身者】

当センターの研究員、革新支援担当24名のうち、12名が新潟大学農学部の卒業生です。

当センターでは新潟大学とこれまで様々な共同研究を実施しています。近年は西洋なし・ぶどう・いちごの果実カラーチャートを作成し、収穫適期の判定に活用しています。また例年、学生の地域交流サテライト実習を受け入れ、果樹の袋かけや収穫作業を体験してもらっています。

最後に、当センターのHPアドレスを以下に掲載します。研究成果等を是非ご覧ください。よろしくお願ひします。

<https://www.pref.niigata.lg.jp/site/engai/>

新型コロナウイルス禍の農学部における授業の現状について

農学部学務委員会委員長
城 斗志夫

マスコミ等の報道でご存知の通り、新型コロナウイルス禍でも小中高校では感染対策を行いながら既に通常の対面型授業が行われていますが、ほとんどの大学では今も授業の多くがオンラインで実施されています。

新潟大学でも4月に「新型コロナウイルスウィルス感染症拡大防止のための授業実施に関する基本方針」が出され、1学期の授業は全て人との接触がない「非対面型授業」のみで実施することになりました。また、2学期に入ると対面による実施が不可欠な授業のみ対面型授業が認められるようになりましたが、実質的にはほとんどの講義科目は引き続き非対面型での実施となりました。非対面型授業としては、Zoomなどのオンライン会議システムを用いたりリアルタイム型授業、授業動画を作成してYouTube

トピックス

などにアップロードして自由に視聴してもらうオンラインデマンド型授業、授業テキストなどの資料を配布してレポートを作成させる資料配布型の授業などがあります。非対面型授業開始前には、オンラ



イン授業を受講する環境が整っていない学生のために大学のWi-Fi環境を利用して受講できる場所を整備したり、学生・教員それぞれに向けたオンライン授業のためのマニュアルを作成したりと様々な準備が進められました。開始当初は学生がうまくネットワークに接続できず授業が受けられないなど様々なトラブルが発生しました。しかし、次第に学生・教員ともにオンライン授業に慣れ、Zoomの入退室記録による出欠管理、チャットによる質疑応答、ブレイクアウトルームを使った小グループでの議論、これまでほとんど使ったことがなかった新潟大学学務情報システムのレポート提出や小テスト機能の利用など、オンラインで利用可能なツールをフルに活用し、多様な授業が展開されています。その甲斐あって大学で実施した授業アンケートでは、従来の対面型の授業ほどではないのかもしれないが、学生から良好な評価を得ています。一方、実学である農学を学ぶ上で農業の現場を理解するために学外での現地見学や実地体験は不可欠で

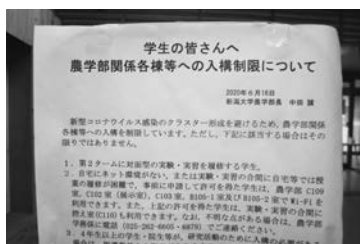
す。しかし、それらの貴重な機会である1年次の地域交流サテライト実習の現場訪問や3年次のインターンシップなどは、今年度中止せざるを得ませんでした。また、基本方針が一部見直され、1学期第2タームから対面での実験や実習が認められることになりましたが、実施に際しては厳しい感染防止策が義務付けられました。学生の毎日の体調管理やマスクの常時着用、手洗いの徹底はもとより、ドアノブ・机・椅子など高頻度接触部位の消毒や室内の換気などは大変な作業です（写真・実験室入口に設置された靴底用消毒液）。また、受講者数が収容定員の1/2以下に制限されているため、対面式の実験台が設置されている実験室の場合、学生同士が向かい合うことがないよう実験台の一方側のみを使うなどの工夫も行っています（写真）。受講者数が定員の半分以下ですので全員同時に同じ実習を行うことができません。そこで学生を複数のグループに分け、グループの数だけ同じ実習を繰り返し行っています。しかし、実験に使える時間には限りがあるため、止むを得ず一部の実習では内容を簡素化したり、オンラインでの実



習動画の視聴を実習の代替としたりするなどしています。その際には教育効果を高めるためカメラを繋いだ顕微鏡の画像をZoomによりリアルタイムで配信して説明するなどの工夫が行われています。

また、卒業論文などの研究活動は4月から完全に休止され、学生の建物への立ち入りも制限される事態となりました（写真）。5月18日から感染防止策の徹底を条件に研究活動の再開が認められることになりましたが、学生からの研究活動同意書の提出、感染者が出た際に濃厚接触者が特定できるよう各部屋への入退室記録表の設置や学生の毎日の研究活動を記録した研究活動状況表の提出などが義務化されており、これらの措置は現在も続いています。

このように新型コロナウイルス感染症は農学部の教育・研究に大きな影響を与えています。しかし、悪い面ばかりではなくこれを機にオンライン授業など新たな教育方法が急速に普及しました。従来の対面型授業を上回る教育効果を上げるには、まだまだ工夫が必要ですが、その良さを最大限に活かした授業方法の開発と推進が今後期待されています。



ペン
ブレ

同窓生からのたより

36年を振り返る

八木裕之(昭60農)

卒業から36年この機会に振り返らせていただきました。

1985年3月、新潟大学農学部農学科卒業。植物病理学教室で小島・富永・和田各先生よりご指導いただいた。

1985年4月、新潟県立興農館高等学校(文部省指定農業自営者養成学校)に新採用。露地園芸部門で農業基礎を担当。中々難しい生徒と個性的な同僚を前に戸惑い、ストレスの多い日々を送る。同校と一緒に赴任した同期の海津整也君と悩みをシェアすることで救われる。

1987年4月、初担任。根拠のない自信は見事に打ち砕かれ生徒指導は困難を極める。生徒会を担当し生徒と活動を作ることの楽しさを知る。

1990年3月、初めて卒業生を

送り出す。入学時35名の生徒は27名となった。

1991年4月、柏崎農業高校に転勤。果樹、生物工学を担当。同期の遠藤昌文君(前回筆耕者)と同僚となる。遠藤君から生物工学と農業クラブ指導について多くを教えられる。バスケットボール部顧問、後に剣道部顧問。農業クラブを担当し農業クラブ活動を学ぶ。

1992年4月、2度目の担任、「今度こそは」の思いはまたしても砕かれ、入学時40名いた生徒は1年後に32名となる。
1995年3月、2度目の卒業生を送り出す。仕事に手応えを感じ始める。

1998年頃、柏崎農業高校が総合高校への改組が決まり、準備に関わる。青森県七戸高校、岩手県岩谷堂高校、筑波大学付属坂戸高校など他県の高校を視察し、刺激を受ける。

2001年11月、初任校興農館高等学校閉校記念式典に出席。時代の

流れ、変化を感じる。

2002年4月、長岡農業高等学校に転勤し食品科学科食品製造担当となる。

2002年7～8月、県の事業を活用し企業研修する。ふらんすや菓子店(菓子工房なかやま)にて1ヶ月間お世話になる。熱い社長の下、多くを学ぶ。

2003年、食品作りの楽しさを感じ始める。製造・販売を通じ地域との交流の重要性を改めて感じる。



クリスマスケーキの製造実習

民講座「製菓・製パン教室」を開講。学習成果を活かし社会貢献、生徒の社会性涵養を目指す？

2010年、高田農業高校に転勤。食品科学科食品製造担当。当時同僚だった中野忠雄教諭らと「炭クッキー」を開発。後に定番商品となる。

2011年、上越市高田商店街で生徒運営のカフェ「山カフェ」を開店。2012年度からは月1定期開催。商品をその場で評価いただく。ダイレクトなフィードバックからの学びを求めて。

2018年4月新発田農業高校に転勤。転勤後すぐの入学式で新発田農業同窓会役員の遠藤昌文君と久々の再会。食品科学科食品化学担当。初めての食品化学担当、勉強し直し。

2020年、新型コロナウイルスのパンデミック。全く想定外のことになり戸惑う。いくつになっても未知の状況に遭遇することを身をもって体験。卒論のテーマでもあったウイルスの知識を思い出しつつ活かす(?)。まだまだ学びは必要と思ひ知る。

今回の筆耕者は大学同期で初任校の同僚、現在柏崎総合高校教諭の海津整也君にお願いします。(確認は取れてます)



京都で暮らしています。

田 窪 陽 一 (平11生還)

20年前の春、私は6年間過ごした新潟を離れて、職員採用に引っかけた京都府にどうにか辿り着いたという感じでした。

その後、何度かの転勤を経て、現在は宇治市にある府の出先公所で林業普及指導員の業務に就いています。

通勤では、JRを京都駅で一度乗り換えます。コロナ禍のため、現在は様変わりしてしまいましたが、京



都駅発のローカル線は東福寺、伏見稲荷、宇治など観光地を経由し、終点の奈良へ向かうため、つい最近まで観光客で非常に混み合っていました。観光客で満員、その大半が外国人という状態で、ふいに外国語で色々と尋ねられ、戸惑う様を見透かされた挙げ句、笑顔で切り上げられてしまうことも日常的なエピソードでした。

これまで経験した業務では、林業技術の普及や林業振興に関係することが多かったです。地域の林業従事者や森林組合・市町村の担当者へ支援制度等の説明をしたり、林業機械のオペレーター向けの技術研修などのほか、府民の方に向けた体験行事や小中学校の授業など、日常的になにかと人前で話すことも多いです。

学業には真面目に専念してなかったツケで、うろ覚えの知識を後追いで調べ直して仕込み、なんとかこなしてきた感じがあります。

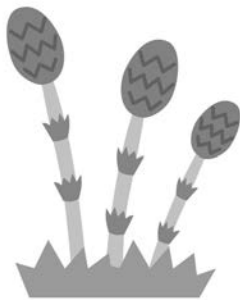
私生活では、子供2人に追われ、自由な時間も(寝る時間も)ないですが、少し気分的な余裕ができた会社人10年目頃に、新潟で始めたスノーボードを再開しています。

学生時代に、スキー場に通い、また資金稼ぎのアルバイトに明け暮れ

ていたことも懐かしく、再開後も意外に続いていて、12月から5月の連休まで、年甲斐もない活動をしています。中高年になって若い頃の趣味を再開する人も多いようですが、新しい交友関係ができるなど、なかなかの充実感があります。

この20年間で世の中では様々なことが起こりましたが、自分自身については、所詮いつになっても相変わらずといった感じがしているところ

さて、今回は西井洋平さん(生産環境科学科13・3卒業、大学院15・3修了)へお願いしました。数年前に仕事関係の会議で一緒にいた以来でしたが、今回お願いしたところ、快く引き受けてくださっています。



会津のくだもの ご存じですか？

政 井 紀 恵 (平9農生)

はじめまして、皆さま！平成8年度農業生産科学科卒業の政井です。大学では、荒木肇先生のご指導の下、「キャベツの越冬栽培」の研究をしていました。現在は、福島県農業総合センター会津地域研究所で、果樹の栽培研究を担当しています。

突然ですが、皆さまに質問です！福島県は「果樹王国ふくしま」として頑張っていますが、福島県会津地方の果樹と言えば何を想像されますか？

私の住む会津地方には、「高田梅(たかたうめ)」や「会津身不知柿(あいづみしらずがき)」などの特産果樹があります。高田梅はアンズに近い品種で50g以上になる大きなウメで、梅酒や梅漬(カリカリ梅)に適しています。私は梅酒に漬けた高田梅が大好きで、一度に3つほど食べ、ほどよい酔いを楽しんでいます(笑)。会津身不知柿は献上柿としてご存じの方もいらっしゃると思いますが、当地方を中心に古くから



身の程知らずにたわわに実る「会津身不知柿」

栽培されている渋柿で10月下旬〜11月に収穫されます。焼酎で渋抜きするとなめらかな食感と濃厚な甘さとなり、多くの人に愛されています。また、地元JAの短期脱渋した柿はパリっとした食感で、特に若者に好まれています。どちらもおすすめです！

会津身不知柿は、近年東南アジアへの輸出を再開したこともあり、仕事では輸出拡大へ向けた試験研究に取り組んでいます。そして、今年度は育休職員の代打として、野菜の試験研究にも携わっています。卒業から20数年経過した今、学生時代に教えていただいたことを思い出しながら

ら、「キャベツの雪下栽培」に取り組んでいます。

今更ですが、もっと一生懸命勉強していれば……との反省と、何事も無駄になることはないことを実感し、日々丁寧に生活しようと思うこの頃です。

次号は、生産環境科学科の栗原(芳賀)春圭さんです。

再び酌み交わす日々が 来ることを待ち望んで

野口 夏 希(平23応生)

① 近況報告

日清食品ホールディングス株式会社へ入社後、即席麺の研究開発、即席食材の研究開発を経て、大学時代よりなじみのある『米』の開発部署で即席ライス、及び冷凍米飯の商品開発・基礎研究に携わってきました。大学時代の研究分野であった生化学とは異なる米へのアプローチでしたが、知識は無駄になるものではなく、米特性の観点等から新規米加工技術等へ繋げる事ができたと自負しています。

② 趣味、または熱中していること

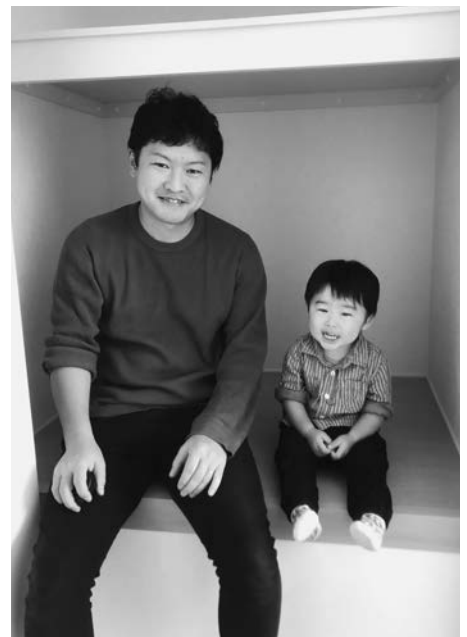
『趣味酒として、酒を栖とす』
学生時代より採用面接等で聞かれる度、『趣味はお酒です。』と答えてきました。

清酒から洋酒まで好き嫌いはありません(中国工場立上の際に飲んだ白酒はグレーゾーン)。昔も今も変わらず、趣味酒として、酒を栖としています。

③ 最近、感動したこと

『新米、新酒の美味しさ』
『新米、新酒の美味しさ』
職業柄、様々な品種・炊飯条件・新米古米の比較官能・評価する試食を行います。硬さ・粘りに加え、味、風味等々を評価しますが、やはり新米がおいしい。硬さ・粘りのバランス、味・風味とも良好で、その旨さを都度感動させられます。毎年新米の時期が待ち遠しいです。

また、合わせて待ち遠しいのが新酒。原稿執筆現在(一二月初旬)は、お気に入りの銘柄が出た直後。お気に入りの酒器に注ぎ嗜み、その秀逸な味・香りに感動しています。



④ 同窓生・在校生の皆さんへ

『青田から飯になるまで水加減』
と云う言葉があります。稲は育成から収穫まで水加減に左右され、米になり、炊飯米としての良し悪しもまた、水加減で決まる。転じて何事も加減が大切と云う事を表しています。コロナ禍中、先を不安に思う方も多いと思いますが、何事も『良い加減』で乗り越えていきましょう。

⑤ 次回の筆耕者の紹介

応用生物化学科の同期、蔵人として生きる湯浅俊作君です。その職人気質な仕事ぶりは友人として非常に誇らしく、推薦させて頂きました。よろしくお祈りします。

現場業務で日々慌ただしく

都田(小笠)真理恵(平24生環)

① 近況

建設会社の現場管理として入社して丸7年が経とうとしています。入社以来、東京―岩手―埼玉―東京の現場勤務後、都内の支店で内勤業務を2年経て、現在はまた現場勤務で神奈川県内の現場に配属され1年が経ちました。今の現場は、2027年に開業が予定されているリニア新幹線の工事の一つです。現場勤務はいつものことですが、日々慌ただしく過ぎていきます。もう少し落ち着いて仕事ができるよう成長したいところです。

② 趣味

まとまった休みが取れるお盆や年末年始に海外旅行に行くことが楽しみでした。ここ数年はほぼ毎年行つてリフレッシュできていましたが、今年はコロナ禍だったため、年始にオーストリアのウィーンに行ったのを最後に国内旅行にも行かず、今後の予定も無くもやもやしています。代わりにはまっていることと言えば、仕事終わりにSNSで人様のお

宅の柴犬の写真を
見て癒されること
でしょうか。

③ 最近、感動したこと

感動ではなく喜びですが、最近マイホームを購入しました。やはり新しい住まいは居心地が良く、家具を揃えたり部屋の使用方を考えたり、週末になるたびに周辺を散策し新しい発見をしたりして楽しんでいきます。今の課題は如何に仕事を効率よく終わらせて帰り、新居滞在時間を長くできるかです。



ウィーン旅行

④ 同窓生・在校生の皆さんへ

在学生の皆さんは今きつとコロナ禍で本来の形の授業が受けられなかつたり、大学生活以外でもしたいことが制限されたりと色々な思いがされていると思いますが、収束の日がくるのを信じて、今しかできないこと、今だからできることを見つけ、頑張ってください。私は大学時代に学んだ勉強が今の仕事に関わっているため、もっと真剣に取り組んで

いたらと後悔しています。勉強は裏切りません。

⑤ 次回の筆耕者の紹介

同じ学科で3学年下の研究室の後輩の佐藤郁さんにお話ししました。現在建設コンサルタントで働かれています。よろしく願います。



「新潟大学カード」入会のご案内

- 新潟大学全学同窓会では、新潟大学の発展を支援し、同窓会員へのサービスと連携を深める目的で、三菱UFJニコスと連携して「新潟大学カード」を発行しています。

この機に是非ともご入会を！

入会費
年会費
無料

※詳しくはホームページ
<http://www.niigata-u.ac.jp/dousokai/card/> を
ご覧ください。



農学部における国際交流について

農学部国際交流委員会委員長 原田 直樹

農学部同窓会の皆様には、日頃より農学部の国際交流活動にご理解を賜り、誠にありがとうございます。

世界中で猛威を振るう新型コロナウイルス（COVID-19）。国際交流はその影響を最も大きく受けた活動のひとつと言えるでしょう。本学では現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、新規の「海外留学・旅行」の全てが「禁止」となっています。

農学部が主催する留学プログラムについても、「外務省が発出する危険情報（感染症危険情報を含む）がレベル2（不要不急の渡航は止めてください。）以上である国・地域を対象としたものは中止又は延期する」という本学の原則に照らし、今年度学生派遣事業として実施を予定していた、ロシア

め、ほぼ実施困難な状況が続いています。ただし、大学院の農学系3

コースを対象とす

る2つの文科省「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」やJICA事業による留学生（正規生）の受入れについては、一部で入学時期の延期等はあるものの、比較的順調に進んでいます。

沿海州国立農業アカデミーでのサマースクール／スプリングスクール、昨年度終了した文科省「大学の世界展開力強化事業」の後継事業であるGlobal Age2025におけるトルコ派遣、農と食のスペシャリスト養成プログラムにおける国際インターンシップ（中国）、JASSO 海外留学支援制度に新規採択された「グローバル先端農業人材の養成を目指した欧州教育圏派遣プログラム」、のいずれもが中止となりました。なお、EU奨学金（Erasmus+）の支援で新型コロナウイルス禍前からトルコに留学していた2名も無事帰国し、海外留学中の農学部生は2021年1月時点でおりません。

一方の受入事業についても、フライトの欠航や政府による入国制限、査証発行停止などの措置のた

る）は全世界の国・地域においてレベル2以上が継続されています。しばらくは現地派遣等の活動については実施が難しい状況が続くと思われまので、今後オンラインによる代替プログラムの導入等を農学部でも検討することになっています。

今後とも、みなさまの変わらぬご支援をどうぞよろしくお願い致します。

学术交流では、恒例の刈羽村先端農業バイオ研究センター（KAAB）国際シンポジウムが、「生物刺激剤・自然との調和における作物の未来を守る」をテーマにこの1月27～28日にオンライン開催され、海外からの68名を含めた159名が参加し、盛会となりました。また来年度は農学部主催の国際シンポジウムの開催年にあたり、11月の開催（オンライン）を目指して準備が始められました。

今のところ新型コロナウイルス禍がいつ収束するのかは不透明で、感染症危険情報（外務省によ

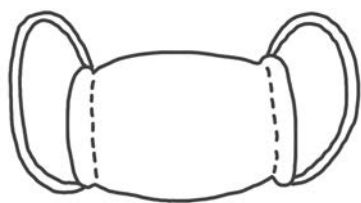


農学部同窓会総会、 常任幹事会開催の中止

役員改選のため4年に1回開催していた総会と、毎年開催される常任幹事会を令和2年7月4日(土)に予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せないことから中止させていただきまし

た。出席のご返信をいただいた方々に対して中止のお知らせを差し上げました。

また、農学部同窓会ホームページに中止の旨お知らせさせていただきました。



学部だより

新任教員紹介

食品科学プログラム

教授 平田 大



令和2年1月、農学部教授(日本酒学センター専任教員)に着任いたしました。

農学部同窓会の皆様にご挨拶を申し上げます。

略歴をご紹介します。昭和62年広島大学工学研究科博士課程(前期)修了後、新潟県醸造試験場(5年間)、平成4年広島大学助手、9年助教授(6-7年英国癌研併任、10-13年JST-PRESTO 研究員併任)、16年教授。その後、26年朝日酒造(株)取締役、令和2年1月から現職です(日本酒学センター副センター長)。

研究歴をご紹介します。学生時代は酵母の分子遺伝学を学び、新潟県醸造試験場では清酒酵母の育種に従事しました。広島大学へ復帰後は酵母の情報伝達経路を研究し、取得し

た酵母の遺伝子がヒトのプロト癌遺伝子の相同遺伝子という縁もあり、

英国癌研(客員研究員・併任)に勤務する機会に恵まれ、酵母を使った細胞癌化(細胞増殖制御)の研究に傾注しました。所長 Paul Nurse 博士(2001年ノーベル医学生理学賞)は人間的な温かみのある偉大な研究者で博士らとの交流は大きな財産になっています。帰国後、酵母を使った細胞癌化と老化寿命の研究を継続。その後、縁があり朝日酒造(株)の研究開発に従事、令和2年、本学から招聘いただきアカデミアへ復帰しました。

これから、世界初の「日本酒学(Sakeology)」の世界的教育研究拠点形成に全力を尽くしたいと考えています。会員の皆様の温かいご支援とご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

食品科学プログラム

助教 島元 紗希



令和2年3月に着任いたしました島元紗希と申します。よろしくお願

いいたします。

鹿児島県で生まれ育ち、令和元年9月に鹿児島大学大学院連合農学研究科で学位を取得いたしました。その後、鹿児島大学で約半年間のポスドクを経て、この度ご縁あり新潟大学で現職に就かせていただいております。

専門分野は栄養科学、飼料科学で、主に筋肉のタンパク質分解を抑制する分子機構の研究に従事してきました。動物の体の約40%が筋肉であり、筋肉は運動や姿勢維持など重要な役割を持つ組織です。また、家畜の筋肉は良質なたんぱく質源として、私たちの食に欠かせないものです。今後、筋肉の量を調節する仕組みの研究を通して、良質な食肉を効率よく生産する技術開発や、人の運動量低下(骨格筋の活動量の減少や老化)によって生じるサルコペニアへの対策方法に貢献したいと思っております。

日々精進しながら、教育研究に取り組んでいく所存です。どうぞよろしくお願

コロナ禍、

嵐丘庭の草刈りを2回実施しました

今年度は嵐丘庭の草刈り作業等を2回実施することが出来ました。例年実施日程の調整に苦慮するところですが、コロナ禍で土日の学内行事が中止となりこちらの希望日時で実施できませんでした。

今年度も渡辺仁会長、中田誠学部長の号令の下新潟県支部会のご協力をいただき1回目は6月28日(日)、2回目は10月18日(日)でした。

2回目には木道に沿って防草シートの敷設を行いました。毎年、楽しみにしていた作業終了後の昼食を兼ねた情報交換会を実施してりましたが、コロナ禍で断念しました。



6月28日



10月18日



防草シート敷設

農学部 の動向

学会賞等受賞

- 寒河江侑加(2019年3月卒業) 応用生物化学科 第64回 香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会ベストプレゼンテーション賞
- Marouane BASLAM (マロウアナバスラム) 令和2年度(第69回) 日本応用糖質学会ポスター賞
- 蟹澤翔太(2019年3月卒業) 農業生産科学科 日本動物遺伝育种学会特別賞
- 新村末雄(1977年3月修了) 新潟大学大学院農学研究科 2020年度日本畜産学会功劳賞(西川賞)
- 島本由麻(2018年3月修了) 新潟大学大学院自然科学研究科 農業農村工学会材料施工研究部会研究奨励賞

学位取得

- 鈴木啓真(2015年3月卒業) 2020年3月修了) 応用生物化学科/新潟大学大学院自然科学研究科

博士（農学）新潟大学
 ○畠山 明（2006年3月卒業）
 応用生物化学科
 博士（農学）新潟大学

退 職

当農学部及び新潟大学のため多大な貢献をされた先生方が令和3年3月に定年退職されます。
 高橋 能彦教授

（フィールド科学教育研究センター 村松農場）
 西村 実教授

（生物資源科学プログラム）
 崎尾 均教授

（佐渡自然共生科学センター 演習林）

ご功績に心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

会 員 計 報

飯田 昭二（昭23・3農専農化）
 内山 昭三（昭23・3農専農化）
 奥山 實（昭23・3農専農化）
 金子 昭男（昭23・3農専林）
 窪田 信夫（昭23・3農専農）
 中澤 正和（昭23・3農専農化）
 大滝 清二（昭24・3農専農化）
 藤田 英吉（昭24・3農専農化）
 山田 辰二（昭24・3農専農化）
 中村淳二郎（昭25・3農専林）

長谷川 宏（昭25・3農専農）
 岡 昭吾（昭26・3農専林）
 笠原 光一（昭26・3農専農）
 堀 和夫（昭28・3農学）
 石井 二郎（昭29・3総農）
 今井 修（昭29・3農学）
 尾竹 芳司（昭29・3総農）
 佐藤 善浩（昭29・3総農）
 志田眞三男（昭30・3農学）
 高橋 喜一（昭30・3農学）
 佐藤 貞夫（昭32・3農学）
 成沢 信吉（昭32・3農学）
 小池 勉男（昭33・3林学）
 太田 正則（昭34・3総農）
 石川 貞蔵（昭37・3農学）
 大久保誠次（昭37・3農学）
 遠藤 敦士（昭38・3農学）
 佐藤 好弘（昭38・3農学）
 野沢 今吉（昭38・3農学）
 大槻 幹男（昭39・3農学）
 大坂 康敏（昭40・3農芸化）
 宮浦 達夫（昭40・3林学）
 中谷 一三（昭44・3農芸化）
 仲沢 衛（昭48・3畜産）
 館田 修司（昭52・3農学）
 佐藤 豊（昭53・3畜産）
 古澤 清（昭53・3畜産）
 内山 洋（昭62・3畜産）
 木村 信（昭62・3農芸化）
 岡田 一郎（昭62・3農学）
 神林 睦美（昭62・3畜産）
 坂本 大地（昭62・3畜産）
 （卒年次順・五十音順）

同窓会事務局からのお願い

住所《変更届》について

同窓会名簿の整備は、同窓会事業の根幹であり、運営の基となる貴重な資料です。

住所を変更された場合は、左記により農学部同窓会事務局までお知らせください。

住所変更の連絡方法

- ① 官製ハガキまたはFAX 025-263-3107
- ② E-mail: dousou@agr.nigata-u.ac.jp



編集後記

今号から編集委員が交代となり、新体制でこれから四年間担当させていただきます。

さて、新型コロナウイルスのニュースが流れ始めた頃、その後の出来事を予測できましたか？本当に考えられないことが次々と起こりました。そして今はマスクに手指消毒…、世の中は大きく変わったと思います。

誌面では「新型コロナウイルス」「地球温暖化」など、直面する大きな課題に向かって農学部が取り組んでいることを載せたいと編集委員会でも検討しました。様々な困難に対応しなければならぬ中で、同窓生が繋がる一助となるように編集を行っています。よろしくお願いいたします。

寄稿していただいた皆様、本当にありがとうございます。なお、毎年六千通余り発送し二百通ほどが戻ってきてしまいます。松涛が届かない同窓生が近くにいらっしやいましたら、ぜひお声がけをしてください。（ペンリレーの校正は編集委員会で行いました。ご了承ください。）



特集

コシヒカリ新潟大学 NU1号の開発

新潟県はその風土に育まれた最高級の良食味を呈するコシヒカリを生産してきました。しかし、平成二十二年および令和元年の夏季は各所で観測史上例を見ない猛暑やフェーン現象に見舞われ、高温障害により、その一等米比率は大きく低下しました。依然として、地球規模でCO2の濃度上昇が進んでいきます。CO2は温室効果ガスとしての影響ばかりでなく、高濃度のCO2によりイネの高温障害がさらに助長されることも明らかになりつつあります。新潟県において、良食味米を将来にわたり安定的に生産し消費者に届けるため、高温や高濃度CO2環境下でも収量や品質が低下しないイネ新品種の開発が強く求められています。

これまで、交配育種や遺伝子組換え技術により高温耐性イネの作出が行われていましたが、新潟大学ではサテライト実験施設の刈羽村先端農業バイオ研究センター（K A A B）を拠点として細胞培養変異法を駆使し、高温、高濃度CO2耐性を有するコシヒカリの突然変異体を選抜・

作出しました。加えて、PCR検査により簡便にNU1号を判別する技術もあわせて開発しました。そして、昨年の3月9日にコシヒカリ新潟大学NU1号として品種登録が認められました。さらに、刈羽村の農家さんの圃場で栽培試験を行い、暑さに強いコシヒカリであることを実証しました（写真①）。10月29日に開催した記者会見（写真②）には、テレビ局5社、新聞6社が集まり、その模様が大きく報道されました。続いて、11月5日には、刈羽村生涯学習センターでNU1号のお披露目を実施し、また、11月2〜6日の間、農林水産省「消費者の部屋」の展示室でNU1号の紹介を致しました。今後、新潟大学や地域の協力を得てNU1号の普及展開を進めます。さらに、K A A Bでは、迅速世代促進技術を駆使し、NU1号をさらに進化させることに加えて、酒米も含め新たな高温耐性新品種を開発を行うてまいります。

K A A Bセンター長

三ツ井 敏明



写真① 刈羽村での栽培試験



写真② 令和2年10月29日の記者会見にて

